

横芝町人口

1万5千人に達成

昭和30年2月1日の町村合併以来はじめて平成5年4月14日



鈴木勇則さんご夫妻に實川町長から記念品が渡されました

表彰

★千葉県健康推進学校優秀校
大総小学校（井上秀次郎校長）

平成5年度山武郡市学校給食研究協議会の会場指定校として「楽しい給食のあり方」の研究を進め、その功績が認められたものです。

★永年勤続表彰

2月1日の町合併記念日に、恒例の永年勤続表彰が行われました。表彰された職員は次の方々です。（敬称略）

伊藤 肇（産業振興課）

に町の人口が1万5千人に達成しました。達成後数ヶ月の間は、増減していましたが、最近では安定し微増しています。1万5千人の方は、横浜市からご家族で両国新田地区へ転入された鈴木勇則さんで、2月1日の合併記念日には、鈴木さんに1万5千人達成を記念して町から記念品が贈られました。

池澤 安司（都市整備課）
市東 恵美（農業委員会）
30年勤続
行方 正一（税務課）
鈴木 秀夫（財政課）
伊藤 秀文（住民課）
実川 恵美子（都市整備課）
25年勤続
早川 信彦（総務課）
藤田あさよ（保育所）
宇野喜美子（保育所）
20年勤続
宇都木信吾（企画空港対策室）
林 英次（住民課）
山本 照男（中央公民館）
伊藤 隆一（産業振興課）
五木田ふさ子（保育所）
須合 峰子（給食センター）



シリーズ④



東陽病院
内科医師
宇野 史 洋

横芝町のみなさん、こんにちは。この季節になると、みなさんの周りにも目を真っ赤にくしゃみを連発している、花粉探知機と呼びたくなるような人がいるでしょうか？私もその一人なのですが、今回は花粉症のお話です。

報告され、わずか30年で急増したらしく、それ以前にはなかったんです。第2次大戦後、国土の復興目的で大量のスギが全国に植林され、昭和40年頃から開花の適齢期を迎え花粉が急に増えたためです。枝打ちなどの手入れを怠った政府の責任である！と訴えている人もいます。家が密閉されたことや排気ガスなどもアレルギー体質の助長につながっているようです。スギ花粉症は日本にしかないそうです。まさに国民病ですね。

春一番が運んでくる厄介者

で、どうすればよいかが問題です。①花粉の多い日、晴れた日には外に出ない。②外に出るときは目と鼻をふさぐ。③目と鼻の中を流水でよく洗う。④スギの生えていない北海道に引っ越す。それもいけませんね。私たちがお勧めするのは、抗アレルギー剤の内服です。免疫反応を抑制して症状を軽減できます。ただし、即効性があまりないので、花粉の出始める2週間

花が目に鼻の粘膜に付着したときに起こるアレルギー反応ですが、アレルギーギョーってなんでしょう。異物（花粉症など）が体に入ると免疫機能が働いて外に追い出そうとします。花粉の場合は、くしゃみやみで追い出して、鼻づまりで吸い込まれないようにして、涙や鼻水で洗い流しているわけです。アレルギー体質の人にこの免疫機能が働く症状が激しくなって辛いのです。アレルギーは過敏性ともいいます。特定の異物（抗原またはアレルギーンといいます）に対して、すごく敏感なんですね。

今は、日本人の10人に1人が花粉症で、そのうち8割がスギ花粉症です。昭和39年に初めて



くらい前から毎日服用する必要があり。症状が出てから飲む薬には、抗スタミン剤・副腎皮質ホルモンなどがありますが、抗スタミン剤は風邪薬にも含まれているので、眠気やだるさを催すので注意が必要です。また、残念ながら鼻つまりにはあまり効きません。副腎皮質ホルモンは副作用が強いので少量を点眼したり鼻に噴霧して使いますが、どちらかというと予防的に用います。ペパーミントガムがアレルギーを抑制し、糖尿病の人に花粉症が少ないといわれています。甘いものとガムで症状が軽くなるのかも？一度、試してみたいかがでしょうか。次回はこの続きで、喘息のお話をする予定です。それでは、また。